

Weekly Bulletin 2018-2019



RI会長
ラリー・ラシン



BE THE INSPIRATION



会長
杉田至弘

静岡東ロータリークラブ

会長／杉田至弘 幹事／川口尚宜

事務局／静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場／ホテルアソシア静岡 例会日／毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>

第 2904 回例会

令和元年 6 月 6 日 天候 晴

- 《司 会》 川口 尚宜 君
- 《合 唱》 「君が代」「奉仕の理想」
- 《BGM》 『交響曲第6番「田園」』 BEETHOVEN
ROYAL PHILHARMONY
- 《ゲスト》 静岡ガス(株)特別顧問 岩崎 清悟 様
- 《ビジター》 なし

- 《本日のお祝い》
お誕生日 結婚記念日
6月6日 森下登志美 君 6月9日 細田 和広 君

《ソングリーダー》 高田 雅司 君



生まれて初めてタクトを振ります。私と音楽の関係はほとんどなく、せいぜい両替町玄南通りで、それも積極的ではなく順番だから歌えと言われ演歌をカラオケするくらいです。更に今日は、岩崎さんの前ということで本当に緊張しています。

《会長挨拶要旨》 「コウノトリの孵化」



杉田 至弘 会長

今日は来賓卓話に岩崎清悟さんをお迎えしました。皆さんご存知だと思いますが、静岡ガスの社長、会長、静岡県経営者協会会長を歴任され静岡経済の発展に寄与されてきました。現在は故郷の清水町にお住まいで、静岡新聞社・静岡放送が県東部地区発展のために立ち上げたサンフロント 21 懇

話会のお話しが聴けるということで私も楽しみにしています。

さて、最近は川崎の殺傷事件など暗いニュースが多いです。メディアの役目は情報をいち早く、正確に報道をしてゆくことですが、あまりにも暗いニュースが多く、そして各社が頻りに追跡番組を組んでいます。社会を明るくするニュースを流すのもメディア大きな仕事です。絶滅の危機にさらされている国の特別天然記念物コウノトリの孵化の話は明るいニュースですので会長挨拶に代えて6月4日付「福井新聞」朝刊を読ませて頂きます。

福井県と福井県坂井市は6月3日、坂井市内の集落内の電柱に作った巣で抱卵していたコウノトリのペアの卵が孵化し、ひなが複数誕生したと発表した。このひなが順調に育てば 58 年振りの野外出産からの巣立ちが期待される。

坂井市内のペアは兵庫県豊岡市生まれの4歳の雄と6歳の雌。このペアは昨年5月に越前市で有精卵を産んだが、このときはペアが巣を空けた際にカラスに持ち去られ、近くの畑で割れた状態で見つかった。

いったん福井を離れたが、今年2月下旬に坂井市内でペアが確認された。その後、坂井市内の電柱などに巣を作ろうとしたが、感電や停電の恐れがあるとして電力会社が撤去してきた。坂井市内の住民が「生ませてあげたい」と要望。北陸電力も巣のある電柱に通電しないように電気の通るルートを変更する工事を行い住民も一時的な停電を受け入れてペアを見守った。

ペアは昨年の失敗から今年は必ず一羽が巣に残り卵を温めてきた。そして5月後半には孵化したとみられ5月27日ごろから、親鳥が巣内に餌をはき戻してひなに与えようとする行動が観察され、6月1日には巣から複数のひなが顔を出す様子が写真で確認された。

巣は高さ14メートルの電柱の上であり、ひなの正確な数は分かっていないが、順調に育てば7月下旬から8月中旬ごろ巣立つ見込みとのこと。もっと明るいニュースがあればいいと思います。

話会の世話人や母校韮山高校同窓会会長など相変わらず八面六臂のご活躍です。今日は静岡交響楽団理事長

《来賓卓話》

「オーケストラへの誘い（いざない）」

静岡ガス㈱特別顧問 岩崎 清悟 様



静岡交響楽団は 1988 年創設で県内唯一の常設プロオーケストラです。昨年で 30 周年を迎えましたが、その歴史の大半は年に数回の公演を行う同好会的な活動が続いていました。音楽的にも優れた評価は得られておらず、6 年ほど前、こうした状況を憂っていた当時の曾根正弘理

理事長や 故西雅寛さんと、静岡にもヨーロッパの地方都市のように地域の文化を下支えする本格的なプロオーケストラがほしい、静響をどう改革していけばよいか協議を重ね、日本オーケストラ連盟正会員を目指し、演奏力の向上と楽団運営の強化を進めることにしました。平成 27 年に曾根さんを継いで理事長となった故西雅寛さんは不在であった常任指揮者に新進気鋭の篠崎靖男さんをお迎えしました。クラシックをこよなく愛した西さんは優れた経営手腕を静響に注ぎ、自ら先頭に立って、楽団の成長を促しましたが、平成 27 年 11 月に急逝されました。改革のリーダーを失った楽団は、途方に暮れる状況で、私に後継を懇請してきました。私は、楽団存亡の危機を見放すことはできず、あえて火中の栗を拾う覚悟で、平成 27 年 12 月に静響の理事長に就任しました。その後はオケ連正会員入りを目標とし、まずは通年を通しての定期公演プログラムの持続の持続と、それを支える財政基盤の確立に取り組みました。オーケストラ公演にはお金がかかり、出演料、招聘料、会場借用料などで、1 公演約 700 万円が必要です。東京であれば 2000 人が入るコンサートホール、チケット代 8000 円程度で、来場者からの収入で楽団運営の多くを賄うことができますが、静響ではチケット代約 4500 円、入場者は多くて 800 名で、来場者からの収入に頼る状況には至っていません。こんな状況で演奏会の都度赤字を計上するようでは、とても活動を継続できませんので、地元企業の皆さんからご支援をいただいております、心から感謝申し上げます。民間の支援により、何とか定期公演の持続は可能となりましたので、更に、音楽活動のすそ野を広げるべく、静岡市に事業発注をお願いし、田辺信宏市長は直ちに事業予算をつけていただきました。「小学校での音楽鑑賞教室」では、楽器ごとの音色の違いやオーケストラの協奏による響きの変化を体感してもらっています。「ゼロ歳児母親コンサート」では子育てで外出もままならない母親たちにコンサートの響きにひとときの開放感を味わっていただき、毎回満席です。こうしたアウトリーチ活動を全県下に拡充するべく、静岡県でも事業予算を今年度新設していただきました。さて、本来の演奏活動ですが、楽団は常任指揮者篠崎靖男さんのもとで 3 年間定期演奏会を着実にこなすことで評価も向上し、プロオーケストラとしての楽員の意識付けも高まってきましたが、オケ連正会員には更なる飛躍が必要だと感じました。そこで日本フィルハーモニー管弦楽団の再建に力を果たされた平井俊邦理事長に教えを請い、

直ちに当楽団でも対策に着手しました。私は専ら経営面や営業面に注力することとし、楽団運営には宮澤敏夫さんに専務理事に就任していただきました。宮澤氏には、ミュージックアドバイザーに高関健氏、コンサートマスターに藤原浜雄氏を招聘し、飛躍を目指す新たなプログラム編成を行っていただきました。本当に一流の指揮者とソリストをそろえ、難しいといわれる楽曲にも挑戦する極めて意欲的なものでありました。当楽団員が付いていけるか心配しましたが、本当によく練習し、懸命にハーモニーを奏でており、実に楽しそうに良い音を奏でていました。市民の皆様からは「静響はよくなったね」と多くの反応をいただき、また音楽業界誌「音楽の友」でも高い評価をいただくようになりました。こうした成長はオケ連正会員入りに着実に近づいていると感じさせます。今年度も意欲的なプログラムを継承し更に飛躍を目指します。さて、楽団員についてお話します。昨年度は年間 95 回の演奏を行い、出演回数が多い団員で年 90 日は楽団の演奏活動に参加しています。団員の出演料収入は年間 150 万円に届きません。これは NHK などの大きなスポンサーに支えられた楽団以外は皆同じ状況です。団員たちは本当に音楽が好きで薄給を厭わず良い音を届けようと日々取り組んでくれています。団員たちを心からリスペクトするとともに、もう少しいい待遇のもとで音楽活動に専心させてあげたいと思う次第です。彼らが地域文化の担い手として大きな役割を果たしていけるよう支援してまいりたいと考えています。結びに、皆様にぜひ公演にお越しいただきたい。清水マリナートの 1200 席が皆さんで一杯になったその時こそが、オケ連正会員に旗揚げの時です。皆様のご支援を心からお願ひ申し上げます。

《スマイル報告》

伊藤洋一郎 君 岩崎さんのオーケストラへの誘いのお話、楽しみにしていました。

森下登志美 君 誕生日のお祝いありがとうございます。東京オリンピックの年に生まれたので、前回のオリンピックは見ておりません。来年のオリンピックが楽しみです。

村松 重治 君 先月の当社決算役員会後に担務変更が発表され、東クラブを 6 月一杯で退会することになりました。在籍 5 年とと思っていましたが丸 7 年でした。それだけ楽しく短いと感じたんだと思います。最終例会でご挨拶させていただきます。後任には 2 年後輩の榛葉英二が入会手続きをされており、7 月からお世話になります。ありがとうございました。

《出席報告》 時間の都合により割愛次週へ

(会報作成 宇田川 享)